

平成26年度 防衛大学校入校式
防衛副大臣訓示

本日、防衛大学校に入校された新入生諸君、入校おめでとう。

また、本日ご参列頂いた新入生のご家族の皆様方におかれましても、この良き日を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。

入校式を挙げる晴れの日、防衛副大臣として、所信の一端を申し述べる機会を得ましたことは、誠に私の喜びとするところであります。

さて、本科入校の諸君。諸君は、これから一般の大学と同等の科目に加え、本校独自の防衛に関する科目を学ぶとともに、各種訓練を行うこととなります。入学金や授業料がかからないだけではなく、卒業までの四年間、諸君は、学生手当が支給されます。なぜ、本校には諸君が学業と訓練に専念できる環境が整備されているのか。それは、様々な場面で活躍する自衛隊において、諸君が国の平和と独立を守るという崇高かつ困難な使命を指揮官、幕僚として担う人材に成長することが、必要とされているからに他なりません。

諸君は、これから数多くの困難に直面することになると思います。情熱を持って教育に取り組む本校の教職員の方々や、学生生活を共に送る諸先輩や同期の存在が、時には諸君の支えとなることでしょう。自衛隊の使命に思いを致し、高き志を持って、日々の生活、教育、訓練に全身全霊をもって励んでいただきたいと思います。

防衛省・自衛隊は、今年、発足から六十年を迎え、この間、国民の期待と信頼に応え着実に歩んでまいりました。

しかし、その一方で、昨今の我が国を取り巻く安全保障環境は、様々な課題が存在し、一層厳しさを増しております。

具体的には、公海上空の飛行の自由を妨げる「東シナ海防空識別区」の一方的な設定、公船による度重なる領海侵入など、我が国周辺海空域において活動を拡大・活発化させている中国、また、核実験の実施や弾道ミサイルの発射など軍事的挑発を繰り返す北朝鮮の動きがあります。

このような、我が国を取り巻く安全保障環境を踏まえ、昨年末、我

が国として初めて国家安全保障戦略を策定し、これを踏まえ、新たな防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画を決定いたしました。

防衛省・自衛隊としては、これらの方針に基づき、求められる役割に十分対応できるよう、さまざまな課題に取り組んでいかなければなりません。

学生諸君には、将来、幹部自衛官としてこのような課題に立ち向かうため、本校での学生生活を通して、柔軟で、創造的な思考力と国際的な視野を養っていただきたいと思います。

理工学研究科及び総合安全保障研究科に入校された諸君。科学技術や国際情勢など、諸君が学ぼうとする分野は時代とともに大きく変化し続けております。諸君には、とりわけ高度な技術力や情勢分析能力を担うことが期待されています。諸君はその期待を十分に自覚し、日々の勉学と研究に精励していただきたいと思います。

各国からの留学生の皆さん。皆さんはそれぞれの母国より選ばれてこの防衛大学校に入校されました。まずは、心より歓迎をいたします。

言葉や生活環境の違いなどの苦勞も多いかと思いますが、どうか困難を克服し、立派な成果を修めていただきたいと思います。防衛大学校の仲間とともに、学生生活を通じ、終生変わらぬ友情を育まれ、貴国と我が国との間の友好協力関係を一層促進するための架け橋となられることを心から希望します。

最後になりますが、日頃から防衛省・自衛隊及び防衛大学校に多大なるご支援・ご協力を賜っておりますご来賓の皆様方に対し、この場をお借りし深く感謝を申し上げますとともに、國分学校長をはじめとする教職員各位にあっては、熱意ある指導に尽力されることを望み、私の訓示と致します。

平成二十六年四月五日

防衛副大臣 武田 良太